

大椎っ子田んぼ 2009 田植え・稲刈り 一子どもたちの感想から

6月1日に田植えをした苗も天候不順な夏を乗り切り、実りの時を迎えました。しかし、稲刈り当日(10月2日)は、秋雨の影響でどんよりとした曇り空。「雨、降らないで!」と祈りながら、たわわに実った稲穂を刈り始めました。途中、小雨が降り出しましたが、担任の先生方やボランティアの父兄の方々の手を借りながら、最後まで刈り終え、一人一束ずつ肩に担いで学校まで持って帰りました。田植えと稲刈り、貴重な体験ができた子どもたちの感想をご覧ください。(次号では、脱穀、藁なえの報告をする予定です。お楽しみに!)

■田植え・自然観察の感想

*私は、自然観察で田んぼにどんな生き物がいるか観察しました。その田んぼには、オタマジャクシ・カエル・タニシ・サワガニなどがたくさんいました。もう一つの田んぼには、オタマジャクシが一面に広がっていました。先生の話によれば、100匹のオタマジャクシがいたら、そのなかで大人のカエルになれるのは5匹だけだとのこと。あんなに、田んぼ一面にオタマジャクシがいたのに、いつしか5匹になるなんて……。私かわいそうに思います。なら私がみたカエルは、その生き残ったカエルなのでしょう。だったらそのカエルは強いカエルだと思います。スイスイ楽しそうに泳いでいたオタマジャクシも生き残るか死んでしまうか、決まった未来しかないことが、すごくかわいそうだと思います。私たち人間は、未来を変えられますが、オタマジャクシはほかの田んぼに移るしか未来は、変わりません。私は、そんな生き物たちのためにももっと自然を大切にしようと思います。(M.N)

*「大変だな〜」まず第1にこれを、感じた。35本植えるだけでもうだめだ〜と思うほどつかれているし、あれだけ動きにくいのに、手早く植えるなんて昔の人は大変だな〜と思った。僕達が、毎日食べている白いお米、いつも食べる時はとくにバクバク食べていたけど、田植えを経験してからは、ありがたさを感じながら食べた。よく食べているお米を作ることが、こんなにたいへんだなんて初めて知った。(S.M)

*私は初めて田植えの体験をしました。行く前は、「どんな所なんだろう。」「何をやるんだろう」と不安でむねがいっぱいでした。そして小山町につき田植えスタート!最初は、裸足になるのもいやだったし、ドロに入るのもいやでした。不安でむねがいっぱいでドロに入るとき田植え体験スタートだっ!と心の中で思いました。田の中にオタマジャクシやカエルやクモなどの自然の生き物



「生まれて初めてあんなにドロの中に思いっきりつかり、一生けん命田植えができ、とても貴重な体験をした一日でした」(M.N)



「すごくたのしく田植えや自然観察ができてうれしかったです」(T.Y)

物が入りました。入ったらドロが足をぐにゃーとつつんで気持ちよかったです。田植え体験をしてよかったと思います。(T.Y)

*私は谷津に行って、びっくりしました。まずあずみが丘では、カエルやオタマジャクシをたくさん見たことがありませんでした。初めは気持ち悪いと思っていましたが、なれてくるとかわいいと思ひ、ついにさわりました。あずみが丘ではカニを目にしません。こんな近くの谷津にカニがいるなんて、谷津の自然の力を感じました。それに耳をすませると、キジやウグイスなどの鳴き声も聞こえてきました。谷津は、自然がたくさんあるので、生き物たちの楽しそうな鳴き声が聞こえてきたんだと思います。私は、谷津はすごいところだと思います。いつも聞いているようなカラスの鳴き声が楽しそうに聞こえる……。なんだか谷津の自然を守っていき、次の世代にもこの私達が感じたようなことをあじわってほしいです。(S.O)

■稲刈りの感想

*3ヶ月ぶりに谷津田へ行きました。ここでは、虫の声も聞けて、緑が広がり、豊かな自然だと、行くたびに思います。自然観察では、ヒバカリというヘビやサワガニをみつけました。あずみが丘では見られないような生き物ばかりです。このような自然に囲まれている谷津田は、いい所だと改めて思いました。次は稲刈りです。6月に植えた1本の苗がこんなに生長するとは思いませんでした。たった4ヶ月でこんなに生長することが勉強できて、よい体験ができました。学校に稲を持って帰り、体育館に干しました。自分たちで育てた米を早く食べたいです。(M.O)

*私は、稲刈りをやってみて、改めて食べ物のありがたみを感じました。今までの私は、「お米なんて、どうせかんたんにできるだろう」と思っていました。しかし、6月の田植えの時に、「大変だな〜」と思ってから、お米のありがたみが少しわかりました。しかし、稲刈りをして、ますますそのありがたみを感じました。私達が稲刈りしていると、雨が降ってきたため体力が奪われ、稲刈りに集中することができませんでした。お母さん方の協力があり、なんとか刈り終えることができました。農家の人は、稲をほおっておけないと、天候にかまわず作業しているのかなと不思議に思いました。これからは、食べ物や大事にして、感謝しながら、お米1つぶでも粗末にしないで食べていきたいです。(S.A)

*6月に植えた1本の苗が、5〜6本ほどに生長していて私はびっくりしました。稲刈りは、お手伝いのお母さん方がカマの使い方を教えてくれたので、怖がらずにできました。始めはうまく切れずにひっかかってしまったけれども、最後の方になるとだんだん慣れてきて、うまくカマで刈ることができました。1本の稲には600粒くらいはついていてはいるのかと思いましたが、数えてみると、100粒くらいしかついていないことがわかりました。苦労して作ったお米も1人が1年間食べる量にならないことがわかりました。私達がお米作りの体験ができたのも、先生方やお手伝いに来てくださったお母さん、お父さん方のおかげだと思います。(M.K)

*私は田んぼにきてびっくりしました。6月1日、ちょうど4ヶ月前に田植えをしたばかりなのに、稲は予想をこえてひざよりも高くなっていました。稲刈りは、雨のため、ぬかるんでいて大変でした。稲刈り前にカマの使い方を教えてもらい、稲はななめうしろにひかないと切れないことがわかりました。また、稲の穂先が目に入ると目が見えなくなることもあるくらい危ないのだそうです。一見かんたんそう



「最初はうまくできなかったけど、だんだんうまくなってくれしかったです」(R.E)

うな稲刈りですが、実はあぶないことがたくさんあり、いろいろなことに注意してやらなくてはならないということがよくわかりました

した。このようにしてできたお米が最後、おいしく食べられればいいなと思います。この体験をいかして、これからもいろいろなことに挑戦したいです。(M.Y)

*稲刈りをする順番が最初だったので、とても緊張しました。だけど12株だったのですぐ終わりました。その後、刈った稲を結んで、モミカウントをしました。1本の稲に100つぶ以上のモミがついていました。1かぶがだいたい6~8本のため、600~800つぶについていることになります。1本の苗からそんなにふえていくということを初めて知り、びっくりしました。自然観察では、ヒバカリという毒をもっていないおとなしいヘビを見つけました。高山さんが「毒をもっていないから触れるよ」と言ったので、触ってみたらニルッとしていました。学校まで稲の束を肩にかけて帰るのが大変でした。次の脱穀が楽しみです。(T.M)

谷津田いきもの図鑑 No. 35 カマキリ

逆三角形の顔に細長い身体で、鎌状の前脚を振り上げて威嚇してくるカマキリ。掴もうとしてトゲトゲの鎌で引っ掻かれて痛かった思い出をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。また、捕まえた虫をむしゃむしゃ食べるとか交尾しながらメスはオスを食べちゃうなどと言われて恐ろしい虫のように思われているようです。

ひと言カマキリを弁護すれば・・・。

鎌を振り上げるのは巨大な怪物(人間)が襲ってくるから、防衛しようとしているに過ぎないし、引っ掻かれるのも掴まれてもがいて逃れようとしているだけのこと。トゲトゲの鎌は生きた餌を挟み捕まえて逃がさないように発達してきたものです。虫には肉食、植物食、雑食、菌食などいますが、肉食のものは他にもたくさんいます。カマキリは大型で人の目に触れやすいだけのこと。可愛いテントウムシだってアブラムシをむしゃむしゃ食べていますが小さくて虫眼鏡でも見ないと肉眼では見えないだけの話。共食いもカマキリは自分より小さいもので動くものを餌と認識して捕らえる習性のなせる業のようです。交尾していてもオスが下手に動けば手の届く頭や胸は食べてしまうこともあります。日本のカマキリは積極的に共食いをしているわけではなく秋も遅く餌がなくなってくるようなときにまま起るようです。メスは栄養を摂り子孫を残すために最良の方策として身につけた習性でしょう。そのような習性からオスは食われても交尾は成立しているそうです。なかには頭を食われることの刺激によってオスからメスに精囊が渡される種もあるということです。

カマキリは亜熱帯、熱帯に多い虫で、世界中で2000種とも言われています。本州には2科9種(九州を含む)が生息していますが、小笠原や南西諸島には他に6種が記録されています。

じっと待ち構えて生きた昆虫を捕らえるという習性はほぼ共通しているようで、日本のカマキリと似たようなものが多いのですが中には擬態が発達している仲間もいます。有名なのは色・形もランの花そっくりに擬態したランカマキリをはじめ、花びら、木肌、枯葉に擬態したりとてもユニークなものもいます。日本のカマキリも細長い身体で草の葉や枝に擬態していると言えます。

谷津田周辺では次の4種を普通に観察します。緑色型と褐色型の2タイプがあります。

- ・オオカマキリ：68~95mmで一番大きいカマキリ 胸の前脚の間が淡い黄色 後翅は付け根を中心に紫褐色。
- ・チョウセンカマキリ：60~85mm オオカマキリより少し細めでスマート 胸の前脚の間が輝く橙色 後翅はわずかに紫褐色を帯びるがほとんど透明。
- ・コカマキリ：40~58mm やや小型でスマート 前脚の基節に黒と腿節に黒と白の紋がある。褐色型が多い。
- ・ハラビロカマキリ：45~71mm 腹部、翅ともやや幅広で前翅に白い紋がある。幼虫は興奮すると腹を反らせる。

他にウスバカマキリ、ヒナカマキリ、ヒメカマキリ、モリカマキリが本州にはいるそうですが、あまり遠出をしない私は見たことがありません。千葉県の実験誌に森の昆虫としてヒナカマキリが載っています。やや暗い林床に生息していて翅が退化しています。何れのカマキリも見てみたいものです。

卵のう(卵鞘とも言います)がこれからの季節に目立つようになります。卵のうは卵と一緒に分泌される粘液が泡立って固まり乾状状になります。卵は多数の気泡に包まれて寒暖や衝撃から守られ、この中で卵は越冬します。卵のうは種によって大きさや形が決まっています。

孵化は幼虫が触角や脚も薄皮をかぶったまま卵のうから出てきて、出ると同時に薄皮を脱ぎ脱皮します。次から次と連なって孵化する様は見ものです。あるとき、小さな甲虫が数匹出て来るのを見ました。カマキリタマゴカツオブシムシというカマキリの卵のうに寄生する虫でした。他にもハチの仲間寄生されることもあります。最強の虫に思えるカマキリも敵わない天敵がいるのです。

カマキリ目とするもの、直翅目としてバッタなどの仲間と一緒にするもの、網翅目としてゴキブリやシロアリなどと同じ仲間とするものなどの分類法があってどれを採ったら良いのか困ります。

カマキリを観察しているときと触角を前脚で手繰って口で掃除したり、前脚の鎌を口で掃除する姿をよく見ます。生きるための大事な道具は神経質なくらい大事にしているように見えます。頭を大きく回転させたり、身体を揺らさせたり動作をじっくり見ているととても魅力を感じる虫です。

(網代春男)



産卵するチョウセンカマキリ(左)とオオカマキリ(右)。チョウセンカマキリは卵のうの形が細長いのが特徴です。



すんぐりした体型のハラビロカマキリ(左)と小柄なコカマキリの緑色型(上)。



卵かいから誕生したオオカマキリの赤ちゃん。



山たんけんレポート

第117回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2009年10月4日(日) 晴れ

稲刈りの終わった田んぼには水田雑草の代表格のコナギが青い可愛い花を咲かせていました。取っても取っても出て来る困り者の雑草ですが花を見ると勘弁してやるかと言う気持ちになります。ミソソバが盛大に咲き、カントウヨメナは清楚な姿で咲いています。休耕田はオギ、ヨシ、セイタカアワダチソウの花穂で覆われ、林縁ではサラシナショウマが咲くなど秋の花の盛りでした。

いろいろな出会いもありました。3連で飛んでいるシオカラトンボに出会いました。どうなっているの?、みみずのようです。産卵中のオオカマキリにも出会いました。カマキリの卵のうは薄茶色をしています。産卵中の卵のうは白いです。ヒメジウシナガカメムシの幼虫が重なりあって塊になった巨大な群れにも驚きました。成虫になったばかりの全身朱色の個体も見られました。生息域を北に広げているメスグロヒョウモンのメス2頭に出会いました。他のヒョウモンチョウより多いくらいです。ショロウグモ、ナガコガネグモも大きくなって立派でした。手の届くところのアケビを取って味わったり、しばし、クリ拾いに興じた秋の散策でした。午後からコシヒカリの脱穀をしました。

(参加者 大人8名、子ども2名； 報告：網代春男)

第101回 下大和田 YPP「みんなでわいわい! 古代米の稲刈り」

2009年11月1日(日) 晴れ

11月というのにポカポカで汗ばむほどの天気の中、古代米の緑米を刈りました。定例の自然観察会と並行開催だったので、下大和田が初めての方はまず谷津を散策して晩秋の自然を観察しました。稲刈りの方はまずベテランさんも含めて最初にみんなで刈り方から結わえ方、掛け方まで確認しました。今年、オダに掛けたコシヒカリが風で落ちてしまうことがあったことからです。古代米の田んぼは泥深いので歩くだけでも大変です。そこで始めての人はまず鎌を持たずに歩く練習。長靴が抜けなくなって怖い顔をしていた子どもたちが少しずつ慣れてきて笑顔が見えるようになってからいよいよ鎌を手に稲刈りのスタートです。最初は力ばかり入ってなかなか刈れませんでした。サクッ、サクッと乾いた音が続けてするようになると稲刈りが上達した証拠。午前中に半分弱、午後は慣れてペースがグンと上がって残りの田んぼを全部刈り終えることができました。緑米は株が太いのでオダに掛けると結構な量になります。子どもたちは途中から稲の運搬に大活躍してくれました。また、水路での生きもの探しではなかなか見られない貴重な生きものを子どもたちがたくさん見つけてくれて、大切な記録になりました。



稲刈りを終えてみんなで記念撮影 (撮影：田中正彦)

あとは脱穀して今年の田んぼの作業は終わりです。水面が開けた田んぼには赤とんぼが訪れて卵を産んでいました。お腹が大きなアカガエルは冬眠の場所を探しているのか、田んぼのあちこちで姿を見かけました。

(参加者 大人17名、小学生6名、幼児2名；報告：高山邦明)

第50回 小山町 YPP「古代米の稲刈り」

2009年10月31日(土) 晴れ

YPP 田んぼに植えた古代米の緑米の稲刈りをしました。YPP 田んぼは谷津の斜面に近いために山側は日当たりが悪いのですが、日照不足の今年はその影響が一段と現れて、この季節になってもまだ稲穂が立ったままで十分な実りになっていません。そこで稲穂が垂れている日当たりが良いところの緑米だけを刈りました。残りがこれからうまく実ってくれるかどうかはお天道様任せです。半分弱くらいを刈り残していますが、それでもみんなでもちつきを楽しむ分くらいは十分に獲れそうなのでひと安心です。稲刈りが早く終わったのでリンドウ広場で育



サツマイモをいっぱい収穫してみんな笑顔! (撮影：榎本一雄)

てたサツマイモも収穫しました。大小さまざまなサツマイモがたくさん取れて、掘り出した子どもたちは大喜びでした。



稲を刈る人、結わえる人、オダを作る人・・・みんなで力を合わせての作業です (撮影：榎本一雄)

(参加者 大人9名、小学生5名；報告：高山邦明)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 10月12日 季節はずれのシュレーゲルアオガエルの鳴き声を聞く(高山)。
10月18日 マユタアカネ、ナツアカネ、アキアカネと田んぼは赤とんぼでにぎわう(高山)。
10月31日 刈り残された稲穂に集まるスズメの群れをめぐってオオタカの若鳥が襲いかかるが失敗。谷津に冬鳥ジョウビタキの鳴き声が響き渡っていた(高山)



下大和田

- 10月24日 ツグミの声を聞く(高山)。
→コシヒカリの切り株から出た二番穂に止まるオオアイトトンボ (10/31 小山にて撮影:高山邦明)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第102回 下大和田 YPP「田んぼ・林の手入れ&古代米の脱穀」

稲刈りが終わった田んぼのあぜの補修や林の手入れをします。稲がうまく乾燥していたら古代米の脱穀をします。

日時: 2009年11月14日(土) 10:00~14:00 *小雨決行、雨天時は15日(日)に順延

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴、軍手、帽子、敷物など。

参加費(資料代等): ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼第119回 下大和田 12月の谷津田観察会とごみ拾い

谷津は紅葉の季節です。冬鳥の声も聞こえるようになりました。初冬の谷津を散策します。午後まで時間の取れる方は田んぼの草取り作業にご協力いただければと思います。

日時: 2009年12月6日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田 YPP に同じ)

集合: 下大和田 YPP に同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

▼YPP「あすみが丘プラザまつり」出展

土気の公民館「あすみが丘プラザ(<http://www.asumigaoka-plaza.jp/>)」のお祭りに今年も出展し、小山や下大和田のYPPの活動を紹介します。脱穀体験や生きもの名前当てクイズなどのイベントもしますので楽しみに。

日時: 2009年11月28日(土)~29日(日) 10:00~16:00(土曜は展示のみ、日曜に解説・イベントを行います)

場所: あすみが丘プラザ(Tel. 043-295-0301, <http://www.asumigaoka-plaza.jp/>)

主催: ちば環境情報センター

編集後記 下大和田も小山も古代米の刈り取りが終わりました。あとは脱穀を残すだけです。稲がなくなって広く感じられる田んぼには開けた水面を求めてアキアカネやマユタアカネなど赤とんぼが集まってきたり、冬眠場所を吟味しているのかお腹の大きなアカガエルがやってきたり、はたまたメダカが心地よさそうに泳いでいたりとにぎわいを見せています。そんな生きものたちの姿を見ていると今年も米作りを続けられて良かったな、と実感します。人が関わることによって保たれてきた谷津田の自然をこれからも維持していきたいですね。

(高山邦明)